

事業所自己評価シート

令和4年度(2022年)

*保護者(21/23 回収率 91%)・職員(4/4 回収率 100%)

職員による自己評価

A環境面

ダイルーム内に置かれていたクッション等をカートに入れて管理する事で若干スペースが広がった。またコロナ新型コロナ感染対策として食事場面のテーブル配置など環境面の配慮も実施した。

B児童への支援内容

利用者の状態を把握し始業時の打合せで共有する事で統一した支援を行う事が出来ている。支援終了後は、送迎もあるため集まっただけの打合せは難しいが、記録等で振り返り気付いた点について共有に努めている。

C関係機関との連携

相談支援事業所の担当者会議や学校との情報共有は行なっており、連携を図る事が出来ている。また日頃から子どもの様子をご家族にお伝えし状況や課題について共通理解を持っていると思われる。

D保護者への説明責任・信頼関係

送迎時のご様子をお伝えし、適時電話連絡等で情報共有を行う事やご家族と相談の上、来所されての面談や電話面談を行い、信頼関係の構築に努めている。

E非常対応

避難訓練は、学校休業期間中に全曜日で実施し活動予定表にも明記している。感染対策に関しては、標準予防策を順守し時事に合わせた対応を行っている。また職員は定期的な抗原検査スクリーニングを行い、感染拡大防止対策を実施した。

保護者による評価

A環境面

環境、体制整備共に「はい」の評価をいただいている。

B児童への支援内容

支援に関しては全ての方から「はい」の評価を頂いている。しかし、他施設や障害のない子供と活動する機会についてはコロナ禍もあり実施出来ておらず「どちらともいえない」の評価が多い。

C事業所からの情報発信

日々の様子は連絡帳や送迎時にお伝えしている。また事業所より対応の変更など周知事項があれば書面にてお知らせを配布している。

非常時やコロナ禍における感染対応時にまちこみメールでご家族に情報発信をした上で、個々に連絡対応をしている。

D保護者への説明責任、信頼関係

児童、ご家族との意思の疎通や情報共有については評価いただいているが、今年度コロナ禍の影響から、ご家族の交流の機会等は持っていない。

E非常対応

概ね「はい」の評価をいただいているが、災害時の避難訓練について「どちらともいえない」の評価をいただいている。



事業所内での分析

【共通点】

- ・コロナ禍のため、家族の交流を持てる機会が持てていないが、事業所、家族ともに状況を見て開催してほしいという思いを持っていることが分かった。
- ・日々の支援に関して、ある一定の評価をいただいていることが分かった。今後ご家族との連携を図っていくとともに、個々の成長に合わせながら、様々な活動を通していろいろな経験を積んでいけるようにしていく必要性を感じた。

【相違点】

- ・避難訓練に関して、ご家族への周知も込めて、活動予定表にも明記してきたが、あまり周知されていないことが分かった。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

活動の様子をご家族に配布する事で利用者の成長や様々な表情を見る事が出来ている。様々な活動を通して経験を積むことができる。また同法人所属のセラピスト（PT・OT・ST）が活動支援に入るため、多角的に状態を評価し共有する事が出来る。

事業所の改善点

防災面に関し改善が必要である。次年度は防災訓練の様子を広報誌に掲載する事で見える化を進めていく。また災害後の事業所の動きなどをご家族に知って頂く事で、より安心していただけたと考えている。また家族交流の機会としてコロナ禍前まで行っていた“いずみのつなぐ会”（家族説明会）を再開していく。

事業所の改善への取り組み

- ・未だ感染対策など様々なことに制限があるが、中でも職員で創意工夫をしながら、安心安全な中で楽しめる空間、様々な経験を通して成長できる場を作っていけるようにしたい。また状況を見ながら少しでも制限を緩和できるようにしていきたい。
- ・防災面に関しては、今まで通り取り組みを行っていく中で災害発生後のご家族との連絡方法など具体的な内容を情報伝達する事でご理解いただけるようにしていきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

コロナ禍も少しずつ落ち着いてきているところ、支援において様々な方法を検討しながら可能性を拡げていきたい。またご家族に対しても日々の支援が見える事業所作りに努めたい。